

中日合作

日本語能力测试 1级模拟试题集

〔日〕 衣川隆生 石崎晶子
瀬戸口彩 松本隆

- 日本权威命题专家命题
- 与“出题基准”完全对应
- 附答案、听力原文、录音带
- 日本語能力测试必备图书



高等教育出版社



株式会社アルク

(京)112 号

图字:01-1999-2001 号

日文书名:日本語能力試験 1 級模擬テスト

日文版© ALC PRESS INC. 1995

日文版发行人:平本照磨

中文版© 高等教育出版社 1999

图书在版编目(CIP)数据

日本語能力测试 1 级模拟试题集/(日)衣川隆生等编.

北京:高等教育出版社,1999.8

ISBN 7-04-007769-8

I. 日… II. 衣… III. 日语-水平考试-试题 IV. H36-44

中国版本图书馆 CIP 数据核字(1999)第 34804 号

日本語能力测试 1 级模拟试题集

[日]衣川隆生 石崎晶子 濑户口彩 松本隆

出版发行 高等教育出版社

社 址 北京市东城区沙滩后街 55 号

邮政编码 100009

电 话 010-64054588

传 真 010-64014048

网 址 <http://www.hep.edu.cn>

经 销 新华书店北京发行所

印 刷 北京市鑫鑫印刷厂

开 本 787×1092 1/16

版 次 1999 年 8 月第 1 版

印 张 9.5

印 次 1999 年 8 月第 1 次印刷

字 数 200 000

定 价 32.00 元(含一本教材 两盘录音带)

凡购买高等教育出版社图书,如有缺页、倒页、脱页等质量问题,请在所购图书销售部门联系调换。

版权所有 侵权必究

项目策划 祝大鸣

责任编辑 祝大鸣

封面设计 王凌波

责任印制 张泽业

目 次

合格への準備と対策

文字・語彙	6
聴 解	10
読解・文法	14

1 級模擬テスト 第 1 回

文字・語彙	24
聴 解	32
読解・文法	38

1 級模擬テスト 第 2 回

文字・語彙	50
聴 解	59
読解・文法	66

1 級模擬テスト 第 3 回

文字・語彙	80
聴 解	90
読解・文法	96

解答用紙

第 1 回	111
第 2 回	113
第 3 回	115

日本語能力試験の構成及び認定基準	117
------------------	-----

前 言

由财团法人日本国际教育协会和日本国际交流基金会主办的、面向全球的“日语能力测试”从1983年起已实施了15年。中国教育部考试中心从1993年起面向社会公开报名。近年来,随着中日各领域交往的不断深入,赴日本学习、工作、考察、研修和到日资等相关企业就职工作的人数不断增加。为了取得“日语能力测试”这一必备的等级资格,各类参加考试人员十分踊跃,报考人数年年增加。

为此,高等教育出版社与日本株式会社アルク合作出版了《日语能力测试模拟试题集》。株式会社アルク在日语教材和日语能力测试用书方面颇具专长,特别是为配合每年一度的“日语能力测试”,该社每年9月份在日本主办一次全日本范围内面对外国人的、唯一的“日语能力测试模拟考试”。这一考试在日本影响较大,该社出版的“日语能力测试”类图书也颇受考生欢迎。本套试题集的试题全部由多年从事“日语能力测试”教育和研究的日本专家仿照“日语能力测试”标准试卷命题,试题具有较高的权威性和仿真性。

本套试题集包括《日语能力测试1级模拟试题集》(附2盘录音带)、《日语能力测试2级模拟试题集》(附2盘录音带)、《日语能力测试3·4级练习模拟试题集》(附2盘录音带)、《日语能力测试1-4级听力训练与自测》(附2盘录音带)共4册,将于1999年8月出版发行。

《日语能力测试1级模拟试题集》包括三部分内容:第一部分为参加1级测试的各项准备和对策,其中包括对历年出题特点与题型的分析、解题方式及技巧等;第二部分包括3套完整标准的1级模拟试卷及3套标准答题纸;第三部分包括3套标准模拟试卷的答案及听力部分原文材料。本书配有2盘听力录音带。

《日语能力测试2级模拟试题集》包括三部分内容:第一部分为参加2级测试的各项准备和对策,其中包括对历年出题特点与题型的分析、解题方式及技巧等;第二部分包括3套完整标准的2级模拟试卷及3套标准的答题纸;第三部分包括3套标准模拟试卷的答案及听力部分原文材料。本书配有2盘听力录

音带。

《日本語能力测试 3·4 级练习模拟试题集》包括四部分内容:第一部分为 4 级测试试题,包括文字、词汇、听力、阅读理解、语法;第二部分为 3 级测试试题,包括文字、词汇、听力、阅读理解、语法;第三部分包括 1 套 3 级标准模拟试题和答题纸;第四部分包括 3·4 级测试试题答案、听力试题原文材料和 3 级模拟试题答案及听力试题原文材料。本书配有 2 盘听力录音带。

《日本語能力测试 1-4 级听力训练与自测》包括三部分内容:第一部分为听力综合测试,其中包括“日本語能力测试”中经常出现的 9 种题型(按照 1-4 级的难易顺序进行排列)。此外,还将这些测试题分为“看图回答”和“无图只听回答”两大类;第二部分包括与“日本語能力测试”的 3 级、2 级、1 级听力水平完全相对应的各种听力测试题,其解题方法与解题形式与“日本語能力测试”完全相同;第三部分包括本书所有听力测试题的答案及原文听力材料。本书配有 2 盘听力录音带。

本套试题集既可供广大考生复习备考使用,也是广大本科生、研究生、成人院校学生以及其他各类日语学习者检查、评估自身日语水平的理想参考书。

愿本套试题集成为读者学习的益友,成功的桥梁。

高等教育出版社 株式会社アルク

1999 年 7 月

目 次

合格への準備と対策

文字・語彙	6
聴 解	10
読解・文法	14

1 級模擬テスト 第 1 回

文字・語彙	24
聴 解	32
読解・文法	38

1 級模擬テスト 第 2 回

文字・語彙	50
聴 解	59
読解・文法	66

1 級模擬テスト 第 3 回

文字・語彙	80
聴 解	90
読解・文法	96

解答用紙

第 1 回	111
第 2 回	113
第 3 回	115

日本語能力試験の構成及び認定基準	117
------------------	-----

日本語能力試験

合格への準備と対策

◆出題の傾向と分析

◆解き方のポイント

はじめに

日本語能力試験の問題は「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の3分野に分けて出題されます。それぞれの時間配分と配点は「文字・語彙」と「聴解」がそれぞれ45分で100点、「読解・文法」が90分で200点です。全部で400点満点で、この7割の280点が合格ラインと考えられています。

この問題集の問題の形式は、過去の出題に合わせ、また出題基準を参考にし、実際の1級の試験に近いものになっていますが、すべてが実際の試験どおりというわけではありません。また、今後、問題の形式が変わるかもしれません。しかし、この問題集をやることで、みなさんの現在の能力と苦手な部分を把握することができるでしょう。

問題を実際にやってみる時には、なるべく本当の試験と同じ時間配分で行ってください。そして、答え合わせをして、全体の7割が合っているかどうかを確認してください。もし、7割に達していない場合には、この後の解説を読んで、苦手な部分を克服できるような準備の方法を考えてみてください。では、まず「文字・語彙」の問題から見ていきましょう。

文字・語彙

問題 I

問題 I は正しい漢字の読み方を選ぶ問題で、約15問出題されます。

問1 健康維持の要は適度な運動である。……
(1) (2) (3)

(1) 維持 1 ほじ 2 こじ 3 いじ 4 しょじ

問題の傾向としては

① 濁音 (゛)、促音 (っ)、撥音 (ん)、長音の区別を問うもの

世論 1 せいろん 2 せろん 3 ようろん 4 よんろん

② 音読みと訓読みの区別や熟語読みを問うもの

安定 1 あんじょう 2 やすさだ 3 あんてい 4 やすじょう

③ 似た意味の言葉との区別を問うもの

営む 1 たしなむ 2 うらやむ 3 いとなむ 4 はぐくむ

練習の時には

- ①「負ける（まける）」「負う（おう）」のような二つ以上の訓読みを持つ漢字
 - ②「強引（ごういん）」「強力（きょうりょく）」のような二つ以上の音を持つ漢字
 - ③「欺く（あざむく）」のような難しい訓読みの漢字
 - ④「有無（うむ）」のような熟語の読み
- これらに注意をしてください。

問題II

問題IIは同じ読み方の熟語を選択する問題で、約15問出題されます。

(1) 個人的なことにあれこれ干渉するものではない。

1 慣習 2 感情 3 乾燥 4 鑑賞

問題IIでは、読み方の似た漢字や熟語のうちの一つは同じ読み方があるものが出題されています。

この問題を解くには熟語の正しい読みを知っている必要があります。ですから、「いぎ」（意義・異義・異議）「かんしょう」（干渉・鑑賞・感傷）「かてい」（仮定・家庭・過程）などの同音異義語を覚えるのも一つの方法でしょう。また、わからない場合には、熟語を分解して、それらが問題の熟語の一部と一致するかどうかを確かめていきます。漢字の部首が同じ場合は読み方が同じ場合のことも多いですから、それを捜すというのも一つの方法です。（例えば「生」「性」「姓」「星」「牲」はすべて「せい」という音読みがあります。）

問題III

問題IIIは正しい漢字を選ぶ問題で、約15問出題されます。

問1 音楽はちてき活動の……

(1) ちてき 1 知的 2 智的 3 值的 4 地的

問題の傾向としては

① 形の似ている漢字の区別を問うもの

しゅっぱ 1 出貨 2 出賃 3 出資 4 出費

② 同じ音読みの漢字の区別を問うもの

かんきゃく 1 勧客 2 館客 3 観客 4 歓客

③ 似た意味を表す漢字との区別を問うもの

たちさる 1 立ち去る 2 立ち下る 3 立ち避る 4 立ち退る

練習の時には

- ① 「就く」「着く」「付く（つく）」のような同じ訓読みを持つ漢字
 - ② 「検討」「見当」「健闘（けんとう）」のような同じ読み方を持つ熟語
 - ③ 「記憶（きおく）」「一億（いちおく）」「臆病（おくびょう）」などの同じ音読みで形が似ている漢字
- これらに注意してください。

問題IV

問題IVは同じ音読みをもった漢字の区別を問う問題で、約5問出題されます。

- 問1 こんなぎろんはいつまで続けても意味がない。
- 1 この事故のぎせいしゃは二十人をこえるそうです。
 - 2 最近の子供の「せいぎの味方」は誰だろう。
 - 3 まるでぎしきのような結婚式だった。
 - 4 ぎちょうはいつまでも採決に移ろうとはしなかった。

練習の時には問題IIIと同じように同じ音読みで形が似ている漢字には注意してください。以上、問題Iから問題IVまでが文字の問題です。文字の問題を解くためには語彙の知識が必要となります。ですから語彙を覚えるときには、その意味だけではなく、その漢字も一緒に覚えるようにしましょう。

問題V

問題Vは下線部に入る適当な語を選ぶ問題で、15問から20問出題されます。

- (1) きのうち見た映画はひさしぶりに心_____ものだった。
- 1 あたたかくなる 2 あたたまる 3 あたためる 4 あたたかい

問題の傾向としては

① 漢字語彙の意味の差を問うもの

コンピューターを使わなかったら、時間がかかりすぎて_____が悪い。

- 1 効果 2 成果 3 能率 4 確立

② 複合語などの意味の差を問うもの

彼は一人で困難な状況を_____。

- 1 のりきった 2 のりおわった 3 のりぬいた 4 のりおえた

③ いつも一緒に使われる語を選ぶもの

仮病を_____して会社を休むものではない。

- 1 なったり 2 したり 3 つかったり 4 かかったり

④ 慣用的な表現を問うもの

最近故郷という言葉は_____ことも少なくなった。

- 1 耳にする 2 耳に入れる 3 耳をすます 4 耳をかたむける

⑤ 副詞の用法を問うもの

主人が帰ってきたのを知った犬は_____うれしそうにしっぽを振った。

- 1 さも 2 さぞ 3 ぜひ 4 なんと

⑥ 外来語の用法を問うもの

新しい商品は消費者_____の意見を聞いて作られる。

- 1 レギュラー 2 フロント 3 タレント 4 モニター

語彙の問題は、その語を知らなければどうしようもありません。そのうえ、おのこの用法も覚えておかなければなりません。ですから、単語を覚える時には、その単語だけではなく、それが使われている文と一緒に覚えた方がいいと思います。その方法の一つとして、普通の辞書だけではなく、簡単な用例辞典と類義語辞典を使った勉強方法をお勧めします。まず知らない単語に出会ったら、その意味を辞書で調べます。そして、その単語と意味の似ている言葉にどんなものがあるかを類義語辞典で調べます。類義語辞典で知っているものがあるれば、その単語とどのように使い方が違うかを用例辞典を使って調べてみましょう。そして、なるべく単語だけでなく、用例も一緒に覚えるようにしてください。

問題VI

問題VIは多義語用法についての問題です。多義語の用法の一つがはじめに書いてあり、それと同じ用法のものを問題中から選ぶ問題で、約10問出題されます。

(例) しだい……事情。

- 1 この仕事が成功するかどうかは、君しだいだ。
- 2 島影がしだいに近づいてきた。
- 3 会議が終わりしだい、すぐに連絡します。
- 4 つぎのようなしだいで、来週の式には出席できません。

この問題を解くときには、まず問題文の下線部分と例の用法を入れ換えてみてください。ただし、問題の中の言葉ときれいに入れ換えられない場合もあります。先に問題を読んで、下線部分の意味を考え、それと書かれている意味が一番近いものを選択するようにしましょう。

聴 解

聴解試験の問題はⅠからⅢまで、それぞれ10問前後あります。問題Ⅰは絵を見て正しい答えを選ぶもの、問題ⅡとⅢは会話を聞いて正しい答えを選ぶものです。

■問題の形式と傾向

問題はまず談話が行われている場面の説明と指示で始まります。つぎに談話があり、それが終わった後で、もう一度指示があります。問題1では答えを絵の中から選びます。問題2と3では、質問の後で1から4までの選択肢を言います。具体的にはつぎのような順番になります。

(●は男の人の声、○、□は女の人の声)

<チャイム>

● 1 番

□ 女の人が鈴木さんから電話をもらいました。

——場面の説明

女の人はこのあと何をしますか。

——指示

〈電話のベルの音〉

○はい、吉田でございます。

●あ、鈴木と申しますが、吉田先生、いらっしゃいます
でしょうか。

50秒ぐらい
の会話

○もうしわけありません。

〈チャイム〉

□女の人はこの後、何をしますか。

——指示

●1 □鈴木さんに電話する。

●2 □ご主人に鈴木さんに電話させる。

●3 □ご主人に明日鈴木さんから電話があると伝える。

●4 □ご主人に今晚鈴木さんから電話があると伝える。

選択肢

聴解の問題には大きく分けて次のようなタイプがあります。

① 会話の一部分を正確に聞き取るもの

指示の例 女の子はどこで待っていますか。

指示のなかに「どこ、いつ、だれ」などが入っている場合は、たいていその
答えを談話の中で言っています。答えに関係のない部分は聞き流して大切な部
分だけ集中して聞くようにすることが必要です。

② 談話の目的や内容を判断するもの

指示の例 会議で司会者が話しています。発言の目的は何ですか。

このような指示の場合、談話の中では発言の目的は話されていません。談話
の中のヒントを集めて、正しい答えを見つけなければなりません。

③ 談話の内容から正しい結論を選ぶもの

指示の例 女の人が環境問題について話をしています。これから気をつけ
なければならないことは何だと言っていますか。

このような指示の場合は、気をつけなければならないことがいくつか述べら
れている場合が多いです。最初に述べられた意見が本当に話し手が伝えたいこ
とだとは限りません。ここでも談話の中のヒントを集めて、少しずつ結論を修
正しながら、正しい答えを見つけることが必要です。

④ 話し手が本当に言いたいことを理解するもの

指示の例 女の人と男の人が話しています。女の方は男の方にどうしてほしいと思っていますか。

このような指示の場合は、話し言葉の特徴に気をつけることが大切です。たとえば

●結婚式の司会、誰がいいかな。

○田中さんはどうかな。

と言った場合、○の人の気持ちは「田中さんがいいと思う」というものでしょうし、

●結婚式の司会、誰がいいかな。

○田中さんなんかいいんじゃない。

●え、あの人はどうかな。

と言った場合、●の人の気持ちは「田中さんは適切じゃない」というものになります。このように、同じ形を使っていても、話し方や前後の関係で意味が変わります。そこに気をつけて正しい答えを選ぶことが必要です。

聴解試験は45分もあります。その試験の間、ずっと緊張し続けるのは大変ですし、長い会話の内容を全部覚えるのは不可能なことです。必要な部分だけを注意深く聞いて、その他の部分は聞き流すようにすることが大切です。そして、マークシートにも気をつけなければなりません。最後の選択肢を言ってから、だいたい6秒で次の問題が始まりますから、テープを全部聞いてから考えていたのでは間に合いません。選択肢を聞きながら、マークをする練習も必要でしょう。

■準備のポイント

次に練習の方法を考えてみましょう。

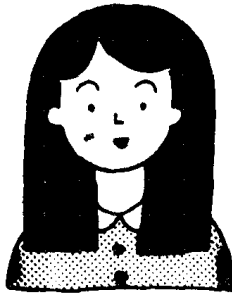
聴解試験の場合には、まず指示を聞いて、その問題をどのように聞けばいいかの考えをまとめることが必要です。ですから、次のような方法で練習してみるのがいいでしょう。

まず、質問を聞いたところでテープを止めます。そして、談話はどんな場面で行われているか、どの問題のタイプかを考えて、会話の一部分を聞き取るのか、全体からヒントを聞き取るのかの作戦を考えてください。問題1では、こ

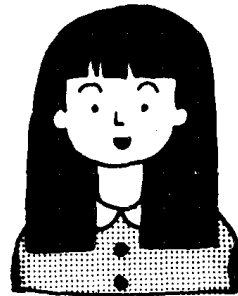
の時に問題の絵はどんな絵かを自分の言葉で説明してみるのもいいでしょう。
たとえば例の絵をみてください。

例

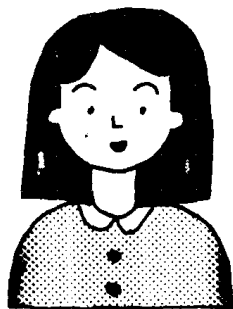
1



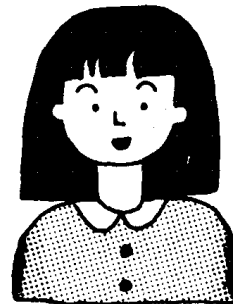
2



3



4



絵の1と2の同じところはどこでしょう。また違うところはどこでしょう。
同じように1と3の同じところと違う所を探してください。1と2で同じところは髪の長さ、違うところは前髪の形です。1と3で同じところは前髪の形、違うところは髪の長さです。そしてこの問題の問いは次のようなものです。

●リーさんは美容院へ行きました。どんな髪の形にしてもらいましたか。
つまり、この問題では髪の長さと前髪の形がどれかを聞き取ればいいのです。

また、

●女の人が環境問題について話をしています。これから気をつけないければ
ならないことは何だといっていますか。

という指示の場合はどうでしょう。このような指示の会話を聞く前には、次の
ような準備をしてみてください。まず、「環境問題とは何か」、「どんな問題が
あるか」をできるだけたくさん考えてみてください。そして、それらの問題の
対策としてどのようなものがあるかも考えてみてください。

その上で会話を聞いて、自分と同じ考えを述べているのか違う考えを述べて
いるのかを判断してください。同じ考えではないかもしれません。どこが共通
し、どこが違うか意識しながら、聞いてみましょう。

テープを聞くときには、途中で止めないで、最後まで聞いてください。会話

が終わったところでテープを止めて、答えを、自分の言葉で考えてみましょう。練習ですから、わからなかったら、もう一度会話を始めから聞いてみてください。自分の言葉で答えられるようになったら、選択肢を聞いてください。自分が考えた答えと同じものがあれば、それが正解です。なければもう一度会話を聞いて、同じことを繰り返してください。

読解・文法

読解・文法の問題は問題Ⅰから問題Ⅵまであります。このうち、問題Ⅴと問題Ⅵは、1993年度の日本語能力試験から加わった問題です。問題Ⅰと問題Ⅱが長文の読解問題、問題Ⅲが短い文章の読解、問題Ⅳから問題Ⅵまでが文法の問題です。

問題Ⅰ・Ⅱ

■問題の形式と傾向

問題ⅠとⅡは1000～2000字前後の長文の読解問題で、一つはエッセイ形式のもの、もう一つは論文形式のものが出題されることが多いようです。それぞれの問題には約10の質問があります。質問には次のようなものがあります。

- ① 筆者はどのような気持ちからこの文章を書いたと思うか。
- ② この筆者の職業として、最も可能性の高いものは何か。
- ③ 上の文章に題をつけるとすれば、次のどれが最も適当か。
- ④ () の中にはどんな言葉を入れたらよいか。
- ⑤ 「_____」とあるが、それが指す内容として最も適当なものはどれか。
- ⑥ 「それ」が指す内容として最も適当なものはどれか。
- ⑦ 「_____」とあるが、それはなぜか。

この質問のうち、①～③は文章全体から、文章の主題や筆者が文章を書いた目的を問うような質問です。このような質問をタイプ1の質問としましょう。④～⑦は文章の一部分を意味や段落と段落の関係などを正確に読み取るような問題です。このような質問をタイプ2の質問とします。この区別は、準備のポイントでも使いますから、覚えておいてください。